道路構造の手引き改定対照表

第 11 編 維持修繕
11-10

新	旧	改訂理由
<p>4. その他施設等の維持修繕</p> <p>4.1 重要構造物</p> <p>重要構造物(ボックスカルバート、擁壁類、法面工、立体横断施設、トンネル等)の維持修繕は、各構造物の性能を適切に保持するように構造物の診断、診断結果に基づいた対策の実施、さらには診断及び対策の記録を適切に行うことが望ましい。</p> <p>4.2 道路付属施設</p> <p>道路付属施設(車両用防護柵・防止柵、道路標識、路面標示、視線誘導標、道路反射鏡、道路情報設備等)の維持修繕は、各道路付属施設の性能を適切に保持するように維持修繕を行うことが望ましい。</p> <p>既設道路照明の支柱の劣化等により建て替える場合の光源は、LED(発光ダイオード)とする。ただし、デザイン灯など、これにより難い場合は、高圧ナトリウムランプ(長寿命タイプ)とする。なお、高圧ナトリウムランプは黄白色系の光色であるため、演色性を考慮する場合や信号等と見誤る恐れがある場合は、白色系の光色のセラミックメタルハイドランプを用いることができる。</p> <p>4.3 植栽および街路樹</p> <p>(1) 植栽および街路樹の剪定は、道路の機能保持、道路及び沿道の環境保全並びに美観保持を目的とする。</p> <p>道路は道路法第4条において「道路管理者は、道路を常時良好な状態を保つよう維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。」と明記されており、植栽および街路樹の剪定等の作業は道路の機能を保持し、道路や沿道に対する環境保全並びに美観保持のうえからも必要なものである。</p> <p>(2) 車両や歩行者の通行や視認性を確保し、安全・安心な道路利用に支障が生じないよう危険な街路樹などは撤去する。</p> <p>(a) 設置基準に合わない危険な街路樹の撤去</p> <p>設置基準に合わないものは危険な街路樹として位置づけ、道路利用者の安全性を優先し、撤去する。</p> <p>設置位置については、第7編 道路緑化 4.4 植樹帯、植樹柵の設置と第7編 道路緑化 5.3 配植の基本事項を参照することとする。</p> <p>(b) 狭幅員歩道の低木や植樹帯の撤去</p> <p>狭幅員の歩道(自転車歩行者道:3.0m未満、歩道2.0m未満)に植栽された低木、整備された植樹帯は、必要な有効幅員を確保するため、撤去することが望ましく、高木の撤去と併せて検討する。</p> <p>撤去した後は、歩道舗装(アスファルト舗装など)を整備し、歩道と一体的に利用できる空間とする。</p> <p>第7編 道路緑化 4. 歩道及び自転車歩行者道の植栽を参照することとする。</p>	<p>4. その他施設等の維持修繕</p> <p>4.1 重要構造物</p> <p>重要構造物(ボックスカルバート、擁壁類、法面工、立体横断施設、トンネル等)の維持修繕は、各構造物の性能を適切に保持するように構造物の診断、診断結果に基づいた対策の実施、さらには診断及び対策の記録を適切に行うことが望ましい。</p> <p>4.2 道路付属施設</p> <p>道路付属施設(車両用防護柵・防止柵、道路標識、路面標示、視線誘導標、道路反射鏡、道路情報設備等)の維持修繕は、各道路付属施設の性能を適切に保持するように維持修繕を行うことが望ましい。</p> <p>既設道路照明の支柱の劣化等により建て替える場合は、LED照明とする。なお、デザインポールなどLED化していない既設ランプの球替えにあたっては、既設照明がけい光水銀ランプの場合においても、高圧ナトリウムランプ(長寿命タイプ)を基本とする。ただし、演色性を考慮する場合や信号等と見誤る恐れがある場合は、白色系の光色のセラミックメタルハイドランプを用いることができる。</p> <p>4.3 植栽および街路樹</p> <p>(1) 植栽および街路樹の剪定は、道路の機能保持、道路及び沿道の環境保全並びに美観保持を目的とする。</p> <p>道路は道路法第4条において「道路管理者は、道路を常時良好な状態を保つよう維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。」と明記されており、植栽および街路樹の剪定等の作業は道路の機能を保持し、道路や沿道に対する環境保全並びに美観保持のうえからも必要なものである。</p> <p>(2) 様々な要因により植栽および街路樹の撤去を検討する場合は、以下の方針に従うこととする。</p> <p>(a) 歩道植栽帯の撤去(植栽樹も含む)</p> <p>(7) 歩道有効幅員2mが確保されておらず、歩行者の安全な通行を著しく阻害している箇所については植栽帯の撤去を検討するものとする。</p> <p>歩道幅員は確保されているが、植栽帯幅1.5m未満で、著しく倒木の危険性がある場合、信号機、標識及び歩行者などの視認性を阻害し交通安全上支障がある場合は、高木の撤去または植栽帯の撤去を検討できる。</p> <p>(4) 高木しかない植樹柵において、高木を撤去することで植樹柵が歩行者などの安全な通行に支障を及ぼす場合は、低木植栽、張コン等の対策を講じる。</p> <p>(9) 植樹帯撤去後、植栽が有していた横断抑止機能等については、その代替施設を検討する。</p> <p>(b) 中央分離帯植栽帯の撤去</p> <p>中央分離帯植栽帯が、著しく安全な通行を阻害している場合、ゴミのポイ捨てにより著しく環境が悪化している場合は植栽の撤去を検討できる。撤去にあたってはその植栽が有している機能(遮光、横断防止)の代替施設を設置する。</p>	<p>・第6編 交通安全、8.4 照明施設の設計の考え方と合わせ、LED化が困難な場合などについては高圧ナトリウムランプ(長寿命タイプ)またはセラミックメタルハイドランプを用いることができるものとしたもの。</p> <p>・第7編 道路緑化 4. 歩道及び自転車歩行者道の植栽、4.4 植樹帯、植樹柵の設置、5.3 配植の基本事項の記載と内容を合わせたもの。</p>

道路構造の手引き改定対照表

第 11 編 維持修繕
11-11

新	旧	改訂理由
<p>(3) 防草対策の実施方法</p> <p>防草対策はさまざまな種類があり、現地に合った対策を実施すべきである。地元からの要望・苦情内容や頻度、雑草の種類など、現地確認を行い、適切な防草対策工法を選定する必要がある。標準的な対策箇所や工法は、下図及び表-1のとおりである。</p> <p>なお、歩車道境界ブロックや中央帯ブロックを新設する場合は、第 6 編 交通安全, 1.5.3 歩車道分離方式および第 6 編 交通安全, 2. 中央帯を参照することとする。</p>	<p>(3) 防草対策の実施方法</p> <p>防草対策はさまざまな種類があり、現地に合った対策を実施すべきである。地元からの要望・苦情内容や頻度、雑草の種類など、現地確認を行い、適切な防草対策工法を選定する必要がある。標準的な対策箇所や工法は、下図及び表-1のとおりである。</p>	<p>・第 11 編 維持修繕では、既設の構造物に対しての防草対策を掲載している。歩車道境界ブロックや中央帯ブロックを新設する場合について、第 6 編 交通安全に記載があるので、そちらも参考にしてもらうため追記したもの。</p>

新	旧	改訂理由
<p style="text-align: center;">【図3-1】 法面（法肩）</p> <p>※ひび割れ防止のため、2m間隔で縦目地を設置する。 目地部分からの草が繁殖するのを防ぐため目地部分に防草シート（w=20cm）を設置してから強コンクリートを打設する。</p> <p>※法面緑化部分が浸食されないよう、適正な路面排水処理を行うこととし、必要に応じて強コン法尻に植生土のう等を設置する。</p>	<p style="text-align: center;">【図3-1】 法面（法肩）</p> <p>※ひび割れ防止のため、2m間隔で縦目地を設置する。 目地部分からの草が繁殖するのを防ぐため目地部分に防草シート（w=20cm）を設置してから強コンクリートを打設する。</p> <p>※法面緑化部分が浸食されないよう、適正な路面排水処理を行うこととし、必要に応じて強コン法尻に植生土のう等を設置する。</p>	<p>・地元調整などの状況により、事務所で防草シートの設置を選択できるようにしたもの。</p>

第 11 編 維持修繕
11-13

新	旧	改訂理由
<p style="text-align: center;">【図3-2】 法面（法尻）</p> <p>防草対策 張コンクリート SL=2.0m 標準厚：=10cm</p> <p>法面緑化 又は防草シート</p> <p>L=3.0m</p> <p>L=2.0m</p> <p>目地</p> <p>※目地部分には幅20cmの防草シートを張コンの下に設置する。</p> <p>※ひび割れ防止のため、3m間隔で鉄目地を設置する。 （目地部分からの草が繁茂するのを防ぐため目地部分に防草シート（w=20cm）を設置してから張コンクリートを打設する） 張コンクリートに代わり、コンクリートブロック張工やモルタル吹付工等を採用することができる</p>	<p style="text-align: center;">【図3-2】 法面（法尻）</p> <p>防草対策 張コンクリート SL=2.0m 標準厚：=10cm</p> <p>法面緑化</p> <p>L=3.0m</p> <p>L=2.0m</p> <p>目地</p> <p>※目地部分には幅20cmの防草シートを張コンの下に設置する。</p> <p>※ひび割れ防止のため、3m間隔で鉄目地を設置する。 （目地部分からの草が繁茂するのを防ぐため目地部分に防草シート（w=20cm）を設置してから張コンクリートを打設する） 張コンクリートに代わり、コンクリートブロック張工やモルタル吹付工等を採用することができる</p>	<p>・地元調整などの状況により、事務所で防草シートの設置を選択できるようにしたもの。</p>